



海老名市イメージキャラクター えび～にゃ

女性の人権について 考えてみませんか？ ～12月10日は「人権デー」です～

12月4日から12月10日は「人権週間」です。本年度の「第63回人権週間」では、啓発活動重点目標「みんなで築こう 人権の世紀～考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心～」を始め、16の強調事項を掲げ、啓発活動を展開することとしています。そのひとつが「女性の人権を守ろう」です。女性に対する差別や不平等を解消する様々な取組みが進められてきました。しかし、日常生活においてはいまだに女性が不利な扱いを受けたり、「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担を強いられることがあります。また、家庭や職場における男女差別や配偶者からの暴力、セクシュアル・ハラスメントなどの人権問題も発生しています。

近年、ドメスティック・バイオレンス（DV）という言葉をよく耳にしますが、DVは、夫や恋人など身近な人からの暴力のことで、大きな社会問題になっています。特に最近では若年層の男女間における暴力、（交際相手からの暴力＝デートDV）の問題が注目されています。「デートDV」が起こる背景には、女性の人権を軽視していること、また若年層においても暴力の問題が身近に存在しているためと考えられています。

今回は「デートDV」について取り上げていきます。

女性に対するDVは なぜ起るの？

女性に対するDVが起こる背景のひとつは、「夫婦や恋人同士など親密な男女間では多少の暴力は許される」という社会風潮や社会における固定的性別役割分担意識や男性優位の意識など歴史的背景が影響しています。

また、社会に暴力があふれていることも要因となっています。テレビ、ゲーム、マンガ、映画等に暴力があふれ、若年層の暴力に対する感覚がまひしてきていることも考えられます。しかし、どんな理由があっても暴力は絶対に許されません。身近な男性からの繰り返し返される暴力は、本人の自信を喪失させ、生きていく力を奪っていきます。DVは人権侵害であり、犯罪行為です。



女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

若者に増えているデートDVって? ～ひとりで悩まないで～

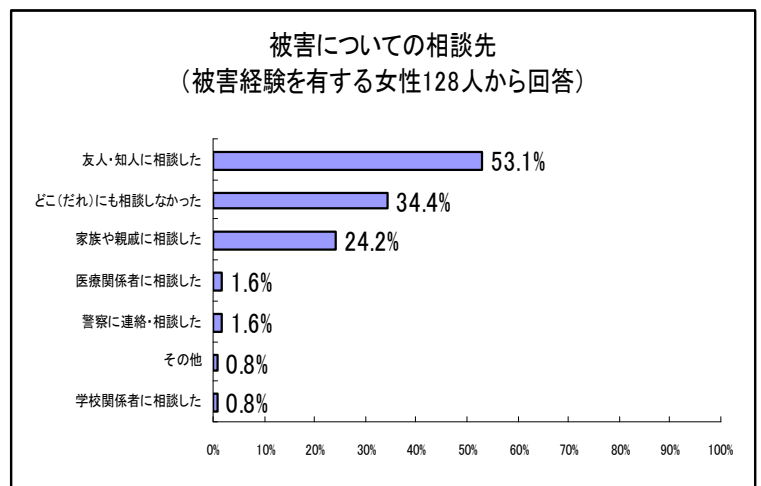
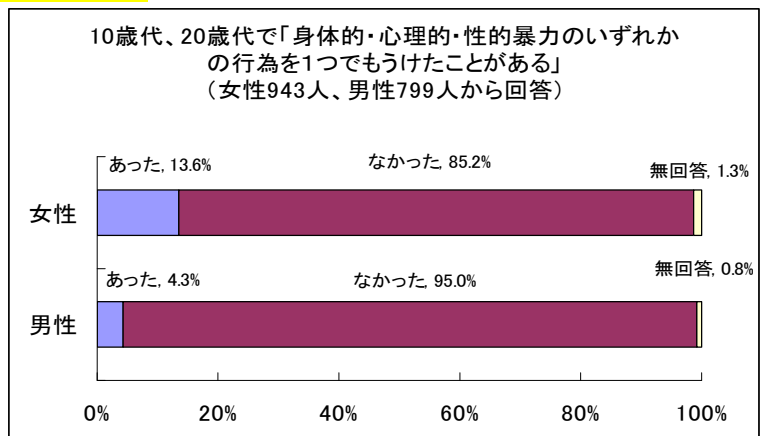


DVは、夫婦間や親密な関係にある間柄におこる暴力のことです。DVは大人だけの問題ではありません。つきあっている恋人との間でおこるDVのことを「デートDV」と呼び、恋人に対する力や言葉の暴力で、身体的・心理的・性的に傷つけコントロールすることです。暴力の形態は、殴る、叩く、蹴るなどの一般的な暴行だけでなく、「気に入らないことがあると物を投げる」「携帯電話のメール、着信履歴などを勝手にチェックする」「行動や交友範囲を制限するなど相手を束縛する」「性的な行為の強要」などさまざまです。若い恋人同士の場合、それを嫉妬や愛情表現だと思い込み、なかなかDVと気づくことができません。

～デートDVの現状～

内閣府が行った「男女間における暴力に関する調査」(平成21年3月)によると、10歳代から20歳代の頃の交際相手(後の配偶者以外)からの被害について、「身体に対する暴行」「精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫」「性的な行為の強要」のいずれかをされたことがあったという人は、女性で13.6%、男性4.3%となっています。

また、交際相手から被害を受けたときの相談先については、「友人・知人に相談した」が53.1%、「家族や親戚に相談した」が24.2%で、身近な人に相談している人が多いことがわかります。しかし、「誰にも相談しなかった」人も34.4%おり、誰にも相談できずにひとりで悩んでいる人が多いのが現状です。ひとりで悩まず、相談することからはじめましょう。



出典：「男女間における暴力に関する調査」内閣府平成21年3月

◎このような行為はすべて暴力（一例）です。もしかして？と思ったら早めに相談を！

身体的な暴力・言葉での暴力

- 殴る・蹴る、叩く
- 首をしめる
- 髪や耳などを引っ張る
- 物を投げつける、壊す
- 大声で怒鳴る、ののしる
- 監禁する など

心理的な暴力

- 携帯電話のメール、着信履歴などをチェックする
- つき合う人や会う人を制限して孤立させる
- 無視する
- 行動を監視する
- 大事にしているものを壊す
- 執拗につきまとう など

性的な暴力

- 無理やりキス・性交する
- 避妊に協力しない
- 見たくないのに無理やりポルノを見せられた など

経済的な暴力

- 「お金をかしてくれ」と言って返さない
- アルバイトをさせる・やめさせる
- 無理にお金を使わせる など

◎デートDVをされている人は・・・このような症状が出たりします



心

- ◆ 身体的暴力を受けたあとぼうぜんとする
- ◆ 自分のせいでイヤなことがおきたと思う
- ◆ 私さえがまんすればと思う
- ◆ イヤなできごとを急に思い出して苦しくなったり涙が出たりする
- ◆ ひとりぼっちだと思う

からだ

- ◆ 眠れなかったり、怖い夢を見たりする
- ◆ 吐き気がする、肩こりがひどい
- ◆ からだが震えたり、心臓がドキドキしたりする
- ◆ 生理が不順になる

デートDVは大切な人の心やからだをこわし、ふたりの関係をこわしてしまう行為です！

◎もしかしてデートDV？と思ったら・・・

決して軽く考えずに、専門の相談機関に相談してください。また、大人のDV同様、周囲が気づいてあげることが重要です。様子の変化に気づいたら話をきいてあげたり、専門機関に相談することをすすめましょう。



- ★ ひとりでがんばらない
- ★ ひとりで抱え込まない
- ★ ひとりで悩まない

～DV相談窓口のご案内～

◇海老名市役所 広聴相談課
☎046-231-2224 月～金 10時～17時
女性相談員が対応します

◎男性被害者の相談は下記へ

◇神奈川県配偶者暴力相談支援センター
かながわ県民センター窓口
☎045-313-0745 月～金 9時～21時
電話・面接対応可。まずはお電話を！

男女共同参画推進員 活動報告

このほど、防災、健康、介護など身近な問題をテーマとした男女共同参画4回連続講座を開催、多くの参加者がありました。そこで10/5堀田力氏講演会と11/10国崎氏の防災講演会の内容を、私たち推進員がお伝えします。

堀田力氏 特別講演会 地域で自分を活かす～男と女と地域と子ども～

【自分の好きなことをやろう】

講師は「自分の好きなことができる人は、自分を大切にしている人であり、自分を大切にしている人は相手も大切にできる人である。夫婦仲も良いし、男女の差別もしない。」と言う。

私は、これぞ男女共同参画のキーワードと思った。仕事にしても、趣味や家事にしても、自分を大切に自分の能力を活かして生きる。それができれば、男女関係なく、相手の能力や適正をみることができるようになる。堀田講師の話は、実に分かりやすい話でした。

【仲間をつくろう、地域との絆をつくろう】

やりたいことがない場合は、中・高生の時に好きだったことをやる。これが一番自分にあるものだという。私も、自分のことも、仲間のことも大切にできる力を育てていきたい。(推進員 飯田)



女性の視点で考える防災 ～地震からわが子を守るためにできること～

【防災頭巾ではなくヘルメットに！】 学校などで子ども達が使っている防災頭巾は、3キロの鉄塊をたった1m上から落とすだけで頭部が陥没し頭蓋骨骨折となるが、ヘルメットなら大丈夫と講師。震災時は雨あられのように上から物が降ってくる。小さなガラス片でも3階から落ちると、簡単に子どもの耳や指が切れてしまう威力があるという。全学校で防災頭巾を改め、ヘルメットにしてほしい。(推進員 溝口)



【地盤の強い土地を求める】 講演冒頭、「自分の家と生命を守るには、しっかりとした地盤(土地)を買い、耐震性のある家を建てる。これだけで被害は最小化されます。これが難しい人は耐震工事だけでもやってください。」と言い切る講師からは、防災に対するものすごい熱意を感じた。



大震災は家族や財産全てを、一瞬のうちに奪う。避難所生活では報道されないような卑劣な事件(強奪・DV等)も多いという。そして生活再建費も、当面の生活確保までに平均200万円。住宅再建費は2,000万円以上が最多という。

あらためて命を守ることを大変さと考えさせられた。

【食料備蓄の知恵】 長期保存できる食品(缶詰・レトルト・乾物類等)常に2週間分用意し、消費しながら買い足していく。講師は「被災者こそ、おいしい食事と十分な睡眠が必要なのです。これがなくては精神を安定させることはできない。」と言う。女性ならではの視点も参考になった。今後、必ずやって来る大災害を生き抜く知恵と力を蓄えていきたい。(推進員 佐藤)



危機管理アドバイザー
国崎 信江先生